回線自動切替装置

ＦＴ－１０３－ＮＸ

取扱説明書

富士通コンポーネント株式会社

安全にお使いいただくために必ずお読みください

このたびは、回線自動切替装置　ＦＴ－１０３－ＮＸ　をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、内容を理解してからお使いください。

本書では、使用者および周囲の方の身体や財産に損害を与えないための警告表示をしています。
警告表示は、警告レベルの記号と警告文から構成しています。
以下に、警告レベルの記号を示し、その意味を説明します。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

⚠警告	この表示は、正しく使用しない場合、人が死亡する、または重症を負う恐れがあることを示しています。
⚠注意	この表示は、正しく使用しない場合、軽傷、または中程度の傷害を負うことがあり得ることと、本装置自身またはその他の使用者などの財産に損害が生じる危険性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。

⚠	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
⃠	⃠で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
❗	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。

本書中の、その他の記号の意味は次の様になっています。

お願い	この表示を無視して、誤った使い方をすると、本装置の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示しています。 必ず守っていただきたい内容を示しています。
ご注意	この表示は、本装置を取り扱う上での注意事項を示しています。
Point	この表示は、本装置を取り扱ううえで知っておくと便利な内容を示しています。
（⇒Ｐ○○）	参照するページを示しています。

ご注意

●本製品の取り扱いについて

本製品として提供される取扱説明書（本書)、装置本体は、お客様の責任でご利用ください。
本製品の使用によって発生する損失やデータの損失については、富士通コンポーネント株式会社は、一切責任を負いかねます。　また、本製品の障害の保証範囲は、どのような場合でも、本製品の代金としてお支払いいただいた金額を超えることはありません。　あらかじめご了承ください。

●電波障害自主規制について

対象型格：　ＦＴ－１０３－ＮＸ

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（ＶＣＣＩ）の基準に基づく、クラスＢ情報処理装置です。　この装置を家庭環境で使用すると、電波妨害を引き起こすことがあります。　この場合には、使用者が適切な対策を講じるよう要求されることがあります。

●本装置は、ＮＴＴのアナログ電話回線用の端末機器です。　ＰＢＸ等の内線に接続した場合、正常に動作しない場合があります。

●ビジネスホンやホームテレホンの４線式の内線側には、接続できません。

●内線側に接続する端末機器（電話機等）によっては、正常に動作しない場合があります。

●ＮＴＴのレンタル電話機が不要となる場合は、局番なしの１１６番（通話料金無料）へご連絡ください。

●本説明書は、本製品とともに大切に保管してください。
本製品を第三者に譲渡する場合は、本説明書も譲渡してください。

●本説明書の内容の一部または全部を無断に転載することを禁止します。

●本製品、および、本説明書の内容は、将来、予告なしに変更することがあります。

使用中の取り扱いについて

⚠警告

ハイセイフティ用途

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、（１）原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御などの、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途ならびに（２）海底中継器、宇宙衛星など、極めて高度な信頼性が要求される用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではございません。
お客様は当該ハイセイフティ用途に要する安全性ならびに信頼性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。また、お客様がハイセイフティ用と本製品を使用したことにより発生する、お客様又は第三者からの如何なる請求又は損害賠償に対しても、富士通コンポーネント株式会社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

感電、火災

開口部から本装置内部に金属類を差し込んだり、落としたりしないでください。　火災・感電・故障の原因になります。

水ぬれ

本装置に水をかけたり、濡らしたりしないでください。　感電・火災の原因となります。

水場での使用

風呂場、シャワー室などの水場で使用しないでください。　感電・火災の原因となります。

悪環境での使用

本装置の上や近くに、花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または、小さな金属物を置かないでください。　装置内に入った場合、火災・感電・故障の原因になります。

電源プラグ抜去

万一、本装置から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、ただちに、電源プラグをコンセントから抜いてください。　感電・火災の原因となります。

使用中の取り扱いについて

⚠警告

電源プラグ抜去

万一、装置内部に水などの異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、販売窓口までご連絡ください。　そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

電源プラグ抜去

万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、販売窓口までご連絡ください。　そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

電源プラグ抜去

近くで雷が発生した時は、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、落雷等による直接・間接的な影響により装置が破壊され、感電・火災の原因となります。

感電

装置のカバーを開けないでください。　特に、通電中にカバーを開けますと、内部には高電圧部があり、感電の原因となります。

使用中の取り扱いについて

⚠注意

火災

本装置を、布でおおったり、包んだりしないでください。　熱がこもり、火災の原因になることがあります。

火災

本装置の開口部（通気孔など）をふさがないでください。
通気孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

衝撃、振動

本装置に過度の衝撃や振動を与えないでください。　感電・火災・故障の原因となることがあります。

国内仕様

本装置は、日本国内仕様です。　本装置を日本国外で使用された場合、弊社は、一切の責任を負いかねます。　また、弊社は、本装置に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承願います。

設置・据付について

⚠警告

感電

アクセサリの取り付けおよび取り外しを行う場合は、必ず、電源コードをコンセントから抜いた状態で行ってください。　感電の原因となります。

感電・火災

本装置を移動させる場合は、電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続線をはずしたことを確認の上、行ってください。　コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

⚠注意

悪環境への設置

水、湿気、湯気、ほこり、油煙等の多い場所（調理台や加湿器のそばなど）に設置しないでください。　感電・火災・故障などの原因になることがあります。

不安定な場所

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

振動・衝撃

振動・衝撃の多い場所に置かないでください。　落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

専用箱での運搬

本装置を運搬する場合は、衝撃や振動を避けるため、購入時の箱か、同等の箱を使用してください。　ただし、変形および破損等がある箱は、使用しないでください。　本装置が故障する原因となることがあります。

結露

本装置を寒冷な環境から設置場所に移動すると、結露を生じることがあります。　装置が完全に乾燥し、設置場所とほぼ同じ湿度になってから使用してください。　すぐに使用すると、本装置が故障する原因となることがあります。

電源コードについて

⚠警告

ぬれ手

濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。　感電の原因となります。

火災

電源プラグとコンセントの接続部には、ホコリやゴミをためないでください。その状態で長い間使用して湿気をおびると、接続部が熱をもって発火にいたる「トラッキング」をおこし、火災の原因になることがあります。

火災

電源コードを巻いたり、束ねたりしないでください。　その状態で使用すると電源コードが熱をもって発火し、火災の原因となります。

感電・火災

電源コードを傷つけたり、加工しないでください。　また、重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりして、電源コードを傷めないでください。　感電・火災の原因となります。

感電・火災

電源コードのコードやプラグが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるい状態では使用しないでください。　そのまま使用すると、感電・火災の原因になります。

感電・火災

指定された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。　また、タコ足配線をしないでください。　感電・火災・故障の原因となります。

⚠注意

感電・火災

電源コードのプラグをコンセントから抜くときは、電源コードを引っ張らずに、必ず電源コードのプラグを持って抜いてください。　電源コードを引っ張ると、コードの芯線が露出したり、断線したりして、感電・火災の原因となることがあります。

火災

電源コードのコンセント差し込みプラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。　プラグとコンセントの接触不良により、火災・故障の原因となることがあります。

火災

長時間、装置を使用しないときには、安全のため、必ず、電源コードをコンセントから抜いてください。　火災・故障の原因となることがあります。

感電・火災

電源コードを熱器具に近づけないでください。　コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

保守について

警告

お客様自身の修理

本装置の修理は、お客様自身で行わないでください。　火災・感電の原因となります。　弊社にご連絡の上、弊社の担当保守員によるメンテナンスを受けてください。

分解・改造

本装置を分解・改造しないでください。　火災・感電の原因となります。　また、本装置の中古品をオーバーホールなどによって再生して使用しないでください。　使用者や周囲の方の身体や財産に予期しない損害が生じるおそれがあります。

注意

装置内の取り扱い

静電気に対し、誤動作や故障を起こす場合があります。　保守担当者以外は内部に触れないでください。

廃棄

本装置は、金属、プラスチック部品を使用しています。　廃棄するときは、各自治体の指示にしたがってください。

目　　次

１．はじめに

このたびは､回線自動切替装置　ＦＴ－１０３－ＮＸをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本装置は、外線１回線、内線３回線を接続できる、電話回線の自動切替装置です。

発信側から送信される内線指定信号（ＰＢ信号）や、ファクスの信号（ＣＮＧ信号）により、指定の内線（電話機、ファクス等）に、自動的に接続します。

ＮＴＴのナンバー・ディスプレイサービスを利用でき、内線２番には、ナンバー・ディスプレイ対応電話機を接続できます。

ＮＴＴのモデムダイヤルインサービスも利用できます。

２．梱包品の確認

箱を開けたら、次のものがそろっているか確認してください。

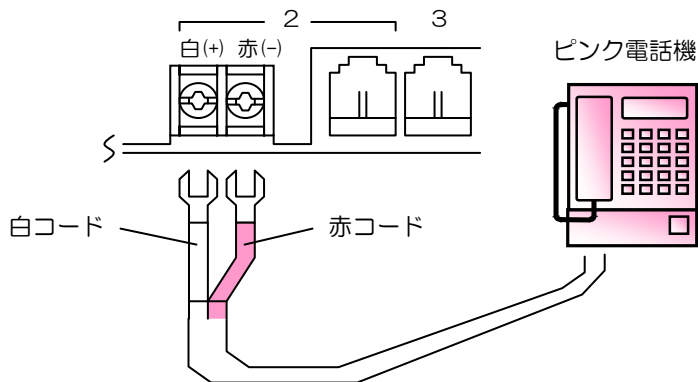
●本体（FT-103-NX）　１台
●モジュラーコード（３ｍ）　１本
●壁掛け用木ネジ　２本
●取扱説明書（本書）　１冊

足りないものがあったり、取扱説明書に乱丁、落丁があった場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

３．各部の名前

電源コード
先端のプラグを電源コンセント（AC100V）に差し込みます。
FT-103
上面
150
LINE
2
3
4
POW
外線ランプ
外線の状態を表示します。
内線ランプ
各内線の状態を表示します。
電源ランプ
電源がはいっているとき点灯します。
210
背面
48
LINE
RVS
1 2
2
白(+) 赤(-)
3
4
DSW
電源コード
先端プラグを電源コンセント（AC100V）に差し込みます。
外線モジュラジャック
外線（NTT 回線等）を接続します。
極性切替スイッチ
外線の極性が反対の時に切り替えます。
内線２ネジ止め端子
内線２にピンク電話機を接続する時に使います
設定用スイッチ
各種の設定をします。
内線４モジュラジャック
内線４（ﾓﾃﾞﾑ等）を接続します。
内線３モジュラジャック
内線３（ﾓﾃﾞﾑ等）を接続します。
内線２モジュラジャック
内線２（電話機等）を接続します。

４．接続

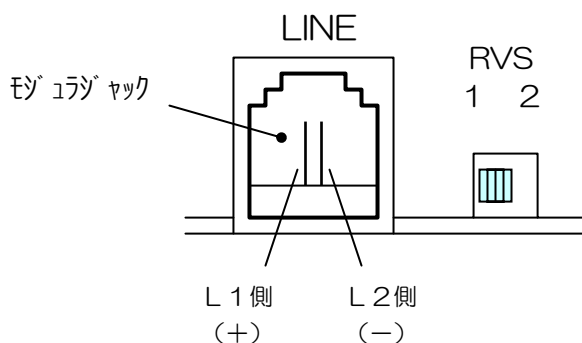
ネジ止め端子にピンク電話機を接続する場合は、下図の様に、ピンク電話機の白色のコードを「白(+)」の端子に、赤色のコードを「赤(-)」の端子に接続してください。白と赤を反対に接続しますと、ピンク電話機は正常に動作しません。

ご注意

●本製品をＰＢＸの内線等に接続した場合、正常に動作しないことがあります。

●本製品に接続可能なピンク電話機の型名は、下記の通りです。下記以外のピンク電話機を接続する場合は、ご相談ください。

675S	675P	PT-12	P てれほん F
675A1	675P-VB	PT-4	P てれほん S
675A2	PT-1P	PT-3CLN	
675SA1	PT-1PN	P てれほんⅢ	
675SA2	PT-2PW	PT-51	

お願い

●外線（ＮＴＴの電話回線等）は、モジュラジャックのＬ１側がプラス、Ｌ２側がマイナスになるように接続してください。極性が逆の場合、置に接続したピンク電話機やナンバーディスプレイ端末等が正常に動作しません。

外線の極性は、次の方法で確認と修正ができます。なお、極性の確認は、待機中におこなってください。

《極性確認・修正方法》
①外線を、モジュラジャック（LINE）に接続してください。
②本装置の電源を入れてください。（ＰＯＷランプが点灯します）
③「ＬＩＮＥ」ランプが点滅しなければ、極性は正常です。
④「ＬＩＮＥ」ランプが点滅する時は、極性が反対です。このときは、「ＲＶＳ」スイッチを反対側に切り替えてください。
⑤極性が正常になると、「ＬＩＮＥ」ランプは消灯します。

●内線に接続する電話機等のダイヤル種別（ＰＢ／ＤＰ）やダイヤル速度は、外線のダイヤル種別、ダイヤル速度と合わせてください。

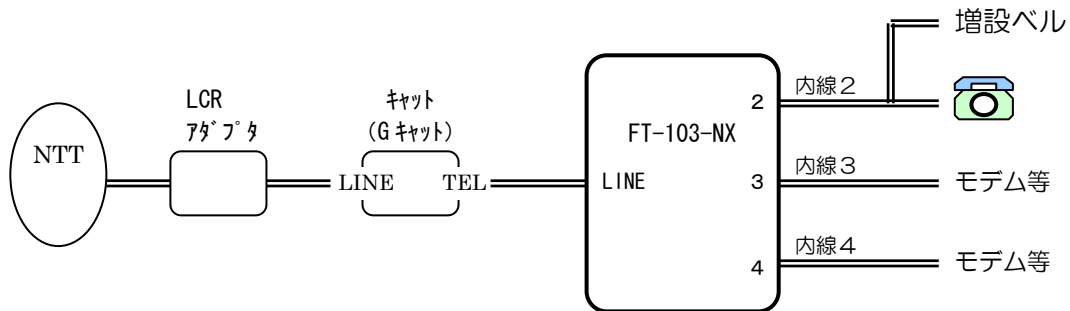
●内線２のモジュラジャックとネジ止め端子は、本装置内で接続（並列接続）されています。電話機等は、どちらか一方に接続してください。両方に電話機等を接続すると、ベルが鳴らない等の不具合が発生する場合があります。

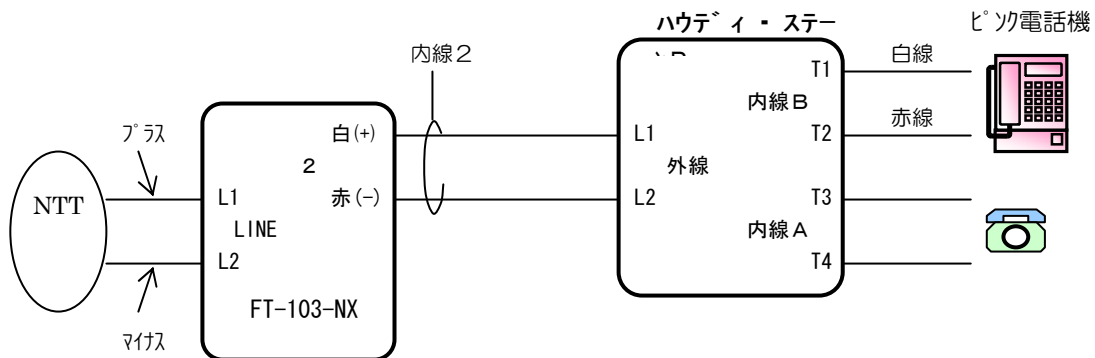
●ピンク電話機は、モジュラー接続式ピンク電話機を除き、必ずネジ止め端子に接続してください。

●ネジ止め端子へ接続する場合は、電話工事担任者の資格、または電話工事担任者の監督が必要です。お買い上げの販売店等にご相談ください。

●モジュラー接続式ピンク電話機（Ｐテレホンｓ）の場合、ピンク電話機のディスプレイ表示に「ガイセンセッテイ　ヘンコウ」と表示されたら、ピンク電話機の金庫カバー内部にある「外線設定スイッチ」を切り替えてください。詳しくは、ピンク電話機の取扱説明書でご確認ください。

●ＮＴＴ回線およびピンク電話機を接続したら、必ずピンク電話機の発信、着信の動作を確認してください。発信動作の確認は、硬貨を使用して（ＫＳキーを使用せずに）おこない、硬貨が金庫に収納されることを確認してください。フリーダイヤル（0120）等の無料通話では、硬貨が収納されませんので、注意してください。

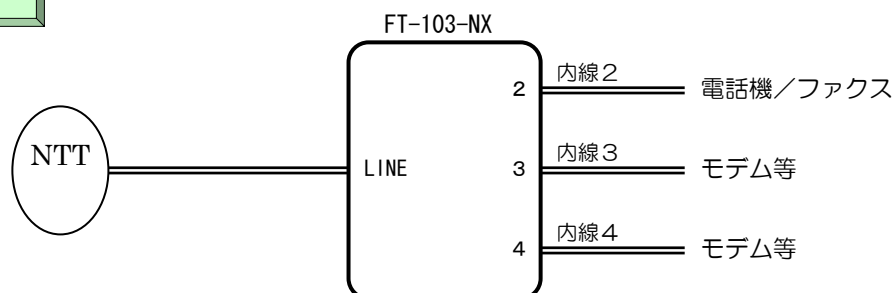
●増設ベル、ＬＣＲアダプタ、キャット等は、接続する位置によって正常に動作しないことがあります。
下図の位置に接続してください。

増設ベルを接続するとき、電話機を内線２のモジュラジャックに接続して、増設ベルをネジ止め端子に接続しても正常に動作します。

●ピンク電話切替装置（NTT／ﾊｳﾃﾞｨ･ｽﾃｰｼｮﾝＰ）を接続する場合は、下図の位置に接続してください。

1）本装置の外線をＬ１プラスになるように接続します。
2）本装置の内線２とパウディ・ステーションＰの外線を接続します。このとき、本装置の白(+)端子をハウディ・ステーションＰのＬ１端子に、本装置の赤(-)端子をパウディ・ステーションＰのＬ２端子に接続してください。正しく接続しないと正常に動作しません。

●コードレスホンの主装置または親機を本装置の近くに設置しないでください。　電話がつながらなかったり、通話に雑音が入ったりすることがあります。

５．自動モードでの使い方（自動切替機能）

外線着信した場合、本装置が自動応答して相手からのＰＢ信号（内線のＩＤ番号）で指定の内線に着信します。
相手からのＰＢ信号がないときには、約５秒後に内線２を呼び出します。

接続図

設定

・設定用スイッチの１と８を、ＯＦＦに設定します。（⇒Ｐ２５）

使用方法

・電話、ファクスは必ず内線２に接続してください。電話をかけるときは、受話器を上げ、電話番号をダイヤルしてください。なお、他の内線が使用中の場合は、話中音（ツーツーツー）が聞こえて、電話をかけることはできません。
・電話／ファクス自動切替機能を利用する場合は、電話機を内線２、ファクスを内線３に接続し、設定用スイッチの２をＯＮに設定します。（⇒Ｐ２５）
・外線着信時、本装置が自動応答して、外の相手からのＰＢ信号（内線のＩＤ番号）により、指定の内線（モデム等）に着信します。
・内線のＩＤ番号は登録により変更できます。（⇒Ｐ２７　ＮＯ．１）
・着信時に、内線を約１分呼び出しても応答しない場合は、回線を切断します。呼び出し時間は、登録により変更できます。（⇒Ｐ２７　ＮＯ．２）
・自動応答時の信号検出時間はスイッチ設定およびシステムデータ登録により変更できます。（⇒Ｐ２５、２７　ＮＯ．３）

お願い

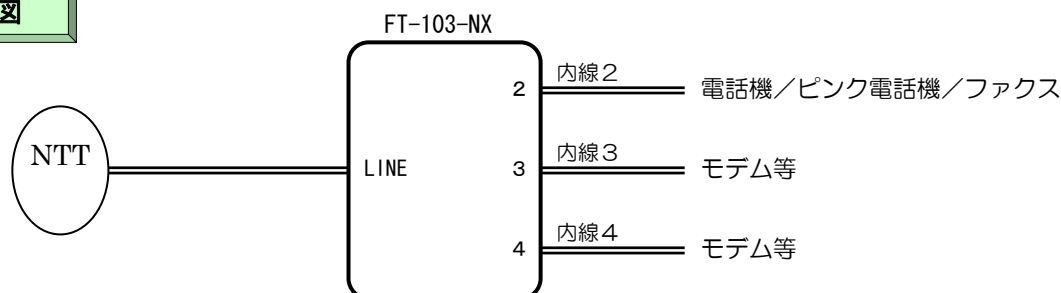
●複数の内線に、同じＩＤ番号を登録しないでください。

ご注意

●着信時、本装置が自動応答した時点から相手側には通話料金がかかります。
●本装置は、自動応答後、相手に呼出音（ﾄｩﾙﾙｰ　ﾄｩﾙﾙｰ）を返します。

６．リモートモードでの使い方（電話着信優先機能）

外線着信した場合、本装置が自動応答しないで直接「内線２」に着信しますので、相手を待たせず、単独電話と同じように使用できます。
内線２が呼び出しに応答せず、一定時間経過した場合、本装置が自動応答し、以後は、自動モードで動作します。

接続図

設定

・設定用スイッチの１をON、８をOFFに設定します。（⇒Ｐ２５）

使用方法

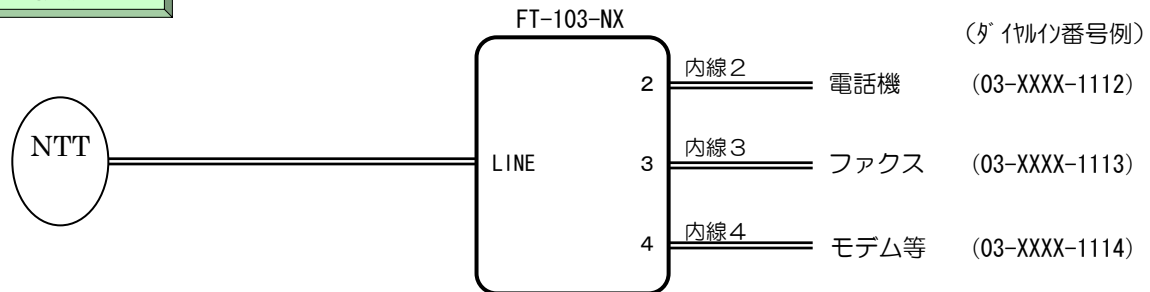
・電話、ファクスは必ず内線２に接続してください。電話をかけるときは、受話器を上げ、電話番号をダイヤルしてください。なお、他の内線が使用中の場合は、話中音（ツーツーツー）が聞こえて、電話をかけることはできません。
・電話／ファクス自動切替機能を利用する場合は、電話機を内線２、ファクスを内線３に接続し、設定用スイッチの２をONに設定します。（⇒Ｐ２５）
・着信時に、内線２を３０秒間呼び出しても応答しない場合は、本装置が自動応答します。以後は「自動モード」で動作しますので、ＰＢ信号により指定の内線（モデム等）を呼び出すことができます。（⇒Ｐ１７）
・「リモートモード」から「自動モード」への切り替え時間「３０秒」は登録により変更できます。（⇒Ｐ２７　NO．４）

ご注意

●「リモートモード」から「自動モード」に切り替わった場合、再びリモートモードに戻るのは、内線２が使用された（内線２の受話器を上げた）ときです。
●着信時、本装置が自動応答した時点から相手側には通話料金がかかります。
●本装置は、自動応答後、相手に呼出音（ﾄｩﾙﾙｰ　ﾄｩﾙﾙｰ）を返します。

７．ダイヤルインモードでの使い方

ＮＴＴのダイヤルインサービスを利用できます。　外からダイヤルイン番号をダイヤルすると、直接、特定の内線に電話をかけることができます。

接続図

設定

・設定用スイッチの８を、ＯＮにします。(⇒Ｐ２５)
・システムデータで各内線のダイヤルイン番号（電話番号の下４桁）を登録します。
　（⇒Ｐ２７　ＮＯ．１）

ご注意

●ダイヤルインサービスをご利用になるには、ＮＴＴとの利用契約が必要です。
●停電時に外から電話がかかってきた時、ダイヤルイン着信では、正常に電話を受けることができません。
●ダイヤルインサービスをご利用になる場合は、同時に次のサービスとの利用契約はできません。
　詳しくは、ＮＴＴ窓口等へお問い合わせください。
　・迷惑電話おことわりサービス
　・トリオホン
　・ボイスワープ
　・マジックボックス
　・ピンク電話　など

お願い

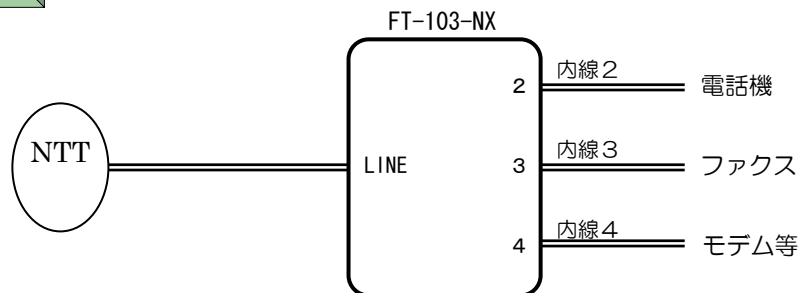
●ダイヤルインサービスを申し込む時は、ＮＴＴ窓口等へお問い合わせください。
●ダイヤルインサービスを申し込む時は、「モデム信号方式（モデムダイヤルイン)」を指定してください。
　（ＰＢ信号方式は、利用できません）
●本装置に、各内線のダイヤルイン番号（電話番号の下４桁）を登録してください。(⇒Ｐ２７　ＮＯ．１）

Point

●すべての内線にダイヤルイン番号を登録する必要はありません。　登録されていないダイヤルイン番号に電話がかかってきた場合は、本装置が自動応答します。　この場合は、外からの内線指定信号で、指定の内線に接続することができます。
●ナンバー・ディスプレイサービスと同時契約した場合は、内線２に接続したナンバー・ディスプレイ電話機に発信電話番号を表示することができます。
●ダイヤルインモードに設定した場合、設定用スイッチ１の設定（自動モード／リモートモード）は無効となります。　電源ランプ（ＰＯＷ）は、橙色で点灯します。

８．電話／ファクス自動切り替え

本装置は、相手ファクスから信号音（ポー　ポー）を受信すると、自動的に内線のファクスを呼び出して接続します。

接続図

設定

・設定用スイッチの２を、ＯＮにします。（⇒Ｐ２５）

使用方法

・ファクスからの着信は、本装置が自動応答し、相手ファクスからの信号音を検出すると、内線３（ファクス）を呼び出します。
・電話からの着信は、本装置が自動応答し約５秒後に内線２（電話機）を呼び出します。

お願い

●電話機は内線２、ファクスは内線３に接続してください。

ご注意

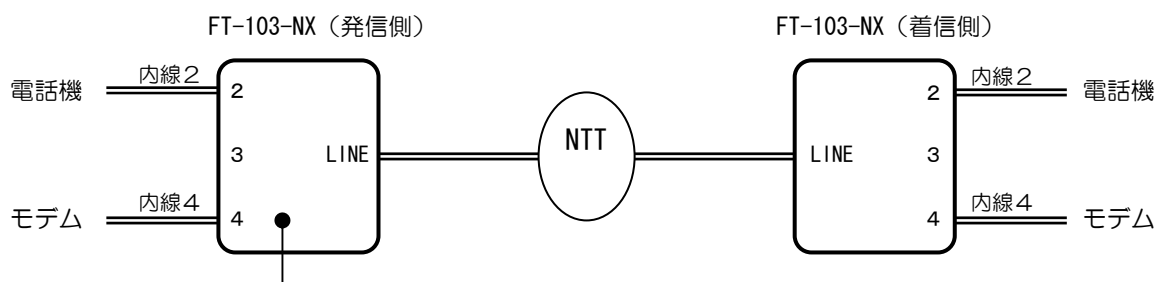
●相手ファクスのＣＮＧ信号の送信タイミングやレベルによっては、自動切り替えできない（電話機が呼び出される）ことがあります。また、相手ファクスがＣＮＧ信号を送信しない（手動送信等）場合は、自動切り替えできません。
●自動切り替えできなかった場合は、内線２が呼び出されます。内線２の受話器を上げたときにファクスの信号音（ポー　ポー）が聞こえるときは、下記の方法で、内線３（ファクス）へ手動転送してください。また、無音のときも、相手がファクスの可能性がありますので、呼びかけても応答がないことを確認し、下記の方法で手動転送してください。

〔内線２から内線３への転送方法〕
①内線２の電話機から転送番号「３＃」をダイヤルします。
　ダイヤル（ＤＰ）回線でお使いの場合は、「＊」の後に、「３＃」をダイヤルしてください。
②内線３のファクスが呼び出されます。外線は保留状態になり、電話機は話中音になります。
③ファクスが応答すると、相手ファクスとの通信状態になります。

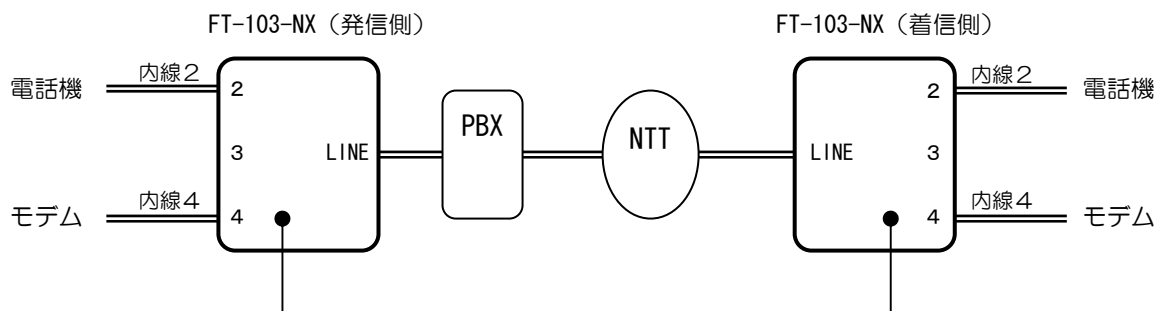
ＰＢトーンが出ないタイプのＤＰ（ダイヤルパルス式）電話機をお使いの場合、手動転送はできません。

９．付加番号付発信機能（対向接続機能）

本装置を発信側と着信側の双方に設置して、内線の付加番号付発信機能を利用すると、発信側装置の内線３に接続したモデムから着信側の電話番号をダイヤルするだけで、着信側装置の内線３に自動的に接続します。同様に、内線４から発信した場合も、着信側の内線４に接続することができます。
付加番号付発信機能には、モードＡとモードＢがあります。

接続図

外線がＮＴＴ回線の場合は、
内線の付加番号付発信を
「モードＡ」に設定します。
（内線４の場合の登録番号：０４１）

お願い

●外線が、ＮＴＴ回線の場合は、内線の付加番号付発信を「モードＡ」に設定してください。
この設定は、内線毎に設定してください。　（⇒Ｐ２６、Ｐ２９　ＮＯ．１８、２０、２２）
●外線がＰＢＸの内線等で、相手応答時に回線の極性が反転しない場合は、内線の付加番号付発信を「モード「Ｂ」に設定してください。　また、着信側の装置では、着信時の応答信号の送出を「あり」に設定してください。
これらの設定は、内線毎に設定してください。（下図参照）
（⇒Ｐ２６、Ｐ２９　ＮＯ．１８　～　２３）

内線の付加番号付発信を
「モードＢ」に設定します。
（内線４の場合の登録番号：０４２）

内線の着信時の応答信号の送出を
「あり」に設定します。
（内線４の場合の登録番号：３４１）

ご注意

●接続するＰＢＸによっては、指定の内線に接続できない場合があります。
●付加番号付発信機能を使うと、発信した内線のＩＤ番号を、本装置が自動的に送信します。着信側装置はＩＤ番号を受信して、同一のＩＤ番号の内線を呼び出します。したがって、接続する双方の内線は、ＩＤ番号が同一であることが必要です。（⇒Ｐ２７　ＮＯ．１）

１０．その他の使い方

１０．１　ナンバー・ディスプレイサービスを利用する

内線２にナンバー・ディスプレイ対応電話機を接続でき、ＮＴＴのナンバー・ディスプレイサービスを受けることができます。
ナンバー・ディスプレイサービスとは、電話をかけた方の電話番号などがナンバー・ディスプレイ対応電話機に表示されるサービスです。

設定

設定用スイッチの７をＯＮに設定してください。（⇒Ｐ２５）

使用方法

・ご使用になるナンバー・ディスプレイ対応電話機の取扱説明書をよくお読みになり、ナンバー・ディスプレイサービスをご利用ください。

ご注意

●ナンバー・ディスプレイサービスをご利用になるには、ＮＴＴとの利用契約が必要です。
●ナンバー・ディスプレイサービスをご利用になるには、ナンバー・ディスプレイ対応電話機が必要です。
●ナンバー・ディスプレイ対応電話機を利用した場合、通常の電話機を使用した場合に比べて、ベルが鳴り始めるのが遅くなります。

お願い

●ナンバー・ディスプレイ対応電話機は、内線２に接続してください。
他の内線に接続した場合、発信電話番号等を表示することはできません。

１０．２　電話の優先発信

内線２は、他の内線の通話を強制切断して、発信することができます。緊急時等に便利です。

設定

・設定用スイッチの４をＯＮにしてください。（⇒Ｐ２５）

使用方法

・内線２の受話器を上げます（他の内線が外線使用中の場合、その通話は強制切断されます）。
・「ツー」という発信音が聞こえてからダイヤルしてください。
（受話器を上げてから、約３～７秒かかります）

ご注意

●ＰＢＸ内線、ターミナルアダプタのアナログポート等に接続している場合は、正常に優先発信ができない場合があります。
●優先発信する場合は、発信音を確認してからダイヤルするようにしてください。特に、ファクス等で自動ダイヤル機能をお使いの場合は、注意してください。

１０．３　Ｆネットの無鳴動着信サービスを利用する

ＮＴＴのＦネット（ファクシミリ専用網サービス）で、無鳴動着信が利用できます。

設定

・設定用スイッチの３をＯＮにしてください。（⇒Ｐ２５）

使用方法

・Ｆネットからの無鳴動着信があると、自動的に内線のファクスと接続します。

お願い

●設定用スイッチで、ファクス自動切り替えを「する」に設定している場合は、内線３にファクスを接続してください。

ご注意

●内線に接続するファクスも、Ｆネットの無鳴動着信サービスに対応している必要があります。

１０．４　着信転送

外からの電話を、他の内線に転送することができます。

設定

・システムデータで、「着信転送機能」を「あり」に設定してください。（⇒Ｐ２８　ＮＯ．７）

使用方法

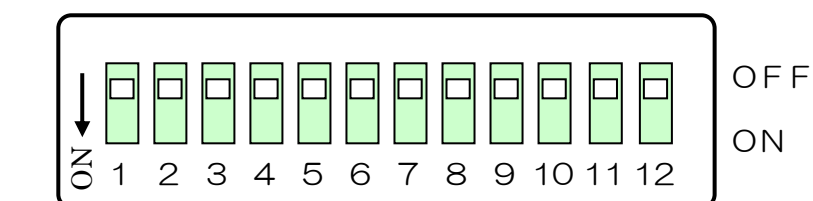
①着信通話中、転送番号をダイヤルします。転送番号は、次の通りです。

内線２へ転送する場合：２＃
内線３へ転送する場合：３＃
内線４へ転送する場合：４＃

②転送先が呼び出され、操作した内線は話中音になります。
（外線には呼出音が送出されます）
③転送先の応答により、外線との通話になります。
（３０秒経過しても応答しないと、切断します）

ご注意

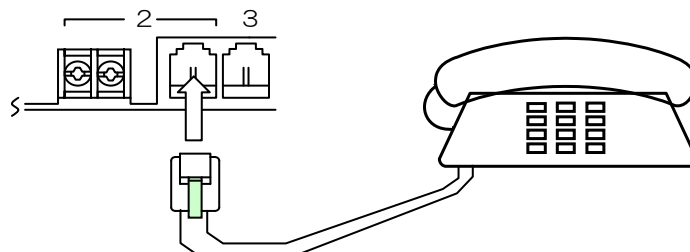
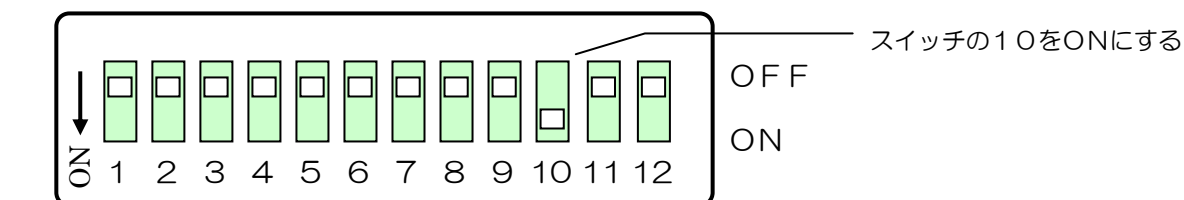
●ＤＰ（ダイヤル）回線でお使いの場合は、「＊」をダイヤルした後、転送番号をダイヤルしてください。
ＰＢトーンが出ないタイプのＤＰ（ダイヤルパルス式）電話機をお使いの場合、転送はできません。
●留守番電話機等のリモート操作で、２＃、３＃、４＃を使用する場合には、転送番号をシステムデータで変更してください。（⇒Ｐ２８　ＮＯ．８）
変更しないで使用すると、留守番電話機のリモート操作時に転送になってしまい、リモート操作が正常にできません。

１１．設定用スイッチの設定

注．工場出荷時は、すべてＯＦＦ側に設定されています

NO.	機　　　能	ｽｲｯﾁの設定
1	着信モード　（⇒Ｐ１７、１８）	自動ﾓｰﾄﾞ ﾘﾓｰﾄﾓｰﾄﾞ
2	ファクス自動切り替え　（⇒Ｐ２０）	しない する
3	Ｆネットの無鳴動着信サービスの利用　（⇒Ｐ２３）	しない する
4	電話の優先発信　（⇒Ｐ２３）	しない する
5	必ず、ＯＦＦ側に設定してください	
6	自動応答時の信号検出時間　（⇒Ｐ１７）	５秒 ３秒
7	ナンバー・ディスプレイサービスの利用　（⇒Ｐ２２）	しない する
8	ダイヤルインモードの設定　（⇒Ｐ１９） このスイッチをＯＮした場合、スイッチ１の設定は、無効になります。	しない する
9	必ず、ＯＦＦ側に設定してください	
１０	システムデータの登録　（⇒Ｐ２６、２７）	する しない
１１	必ず、ＯＦＦ側に設定してください	
１２	必ず、ＯＦＦ側に設定してください	

１２．システムデータの登録

準備

①お手持ちのＰＢ（プッシュボタン式）電話機を、内線２に接続してください。

②設定用スイッチの１０をONに設定してください。（⇒Ｐ２１）

登録方法

①内線２に接続した電話機の受話器を上げます。
　⇒　「プップー　プップー　・・・　」という音が聞こえます。

②登録番号をダイヤルします。
　⇒　登録されると、「ププププププ」という確認音が聞こえたあと、
　　　「プップー　プップー　・・・　」という音に変わります。

③受話器をおろします。

お願い

●電話機は、ＰＢ（プッシュボタン式）電話機をお使いください。
　ＰＢトーンの出ない、ＤＰ（ダイヤルパルス式）電話機では、登録できません。
●登録後は、設定用スイッチの１０を必ずＯＦＦに戻してください。

ご注意

●設定用スイッチの１０をONにすると、ＬＩＮＥ、内線２～４ランプが遅い点滅になります。
●登録番号をダイヤルした後、「プー　プー　・・・」という話中音になったときは、登録されていませんので初めから登録をやりなおしてください。
●複数の項目を連続して登録することができます。
　「ププププププ」という確認音が聞こえたあと「プップー　プップー　・・・」という音が聞こえたら、次の項目の登録番号をダイヤルしてください。すべての登録が終わったら、受話器をおろしてください。
●本装置は、電源が切れても、システムデータを保持（不揮発性メモリに保存）しています。
●登録番号として「＊＃」または「９９００」をダイヤルすれば、システムデータを初期化できます。
　（⇒Ｐ２９　ＮＯ．２５）

システムデータ一覧表

注．　　　は初期値です。

NO.	機能名	登録内容	登録番号	点灯ﾗﾝﾌﾟ	注意事項
１	内線のＩＤ番号 内線のダイヤルイン番号 （⇒Ｐ１７、１９、２１）	任意の ＩＤ番号 または ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ番号	９ ＋内線番号 ＋ＩＤ番号 例） 内線４の ＩＤ番号を 「１４」に 設定する場合 は ９４１４ とダイヤル します。	LINE+2	ＩＤ番号は１～４桁で任意に登録できます。 ただし 「＃」記号は最初または最後の桁に使用してください。 「＃」が最初の桁の時は３桁まで登録してください。 例）　＃２２ 　　　＃１２
		内線２：2# 内線３：3# 内線４：4#	９１０	LINE	ダイヤルイン番号は、ダイヤルイン電話番号の下４桁を登録してください。 ＩＤ番号もダイヤルイン番号も、複数の内線に同じ番号を登録しないでください。
		内線２：#22 内線３：#33 内線４：#44	９１１	２	
		内線２：02# 内線３：03# 内線４：04#	９１２	３	
		内線２：#00 内線３：#99 内線４：#77	９１３	４	
		確認	９１９		
２	自動応答時の内線呼出時間 （⇒Ｐ１７）	３０秒 ４５秒 ６０秒 ９０秒 １２０分 ２５６秒 確認	７１ ７２ ７３ ７４ ７５ ７６ ７９	２ ３ LINE ４ LINE+２ LINE+３	
３	自動応答時の信号検出時間 （⇒Ｐ１７）	ｽｲｯﾁ選択 ７秒 １０秒 １５秒 ２０秒 ２５秒 確認	４０ ４１ ４２ ４３ ４４ ４５ ４９	LINE ２ ３ ４ LINE+２ LINE+３	「ｽｲｯﾁ選択」時は、初期設定用スイッチで３秒と５秒の選択ができます。 （⇒Ｐ２１）
４	リモートモードから 自動モードへの切替時間 （⇒Ｐ１８）	切替なし １５秒 ２１秒 ３０秒 ４５秒 ６０分 ９０秒 ２分 確認	６０ ６１ ６２ ６３ ６４ ６５ ６６ ６７ ６９	２ ３ ４ LINE LINE+２ LINE+３ LINE+４ LINE+2+3	

NO.	機能名	登録内容	登録番号	点灯ﾗﾝﾌﾟ	注意事項
５	オンフック転送時間	なし ５秒 １０秒 １５秒 ２０秒 ２５秒 確認	５７０ ５７１ ５７２ ５７３ ５７４ ５７５ ５７９	LINE ２ ３ ４ LINE+２ LINE+３	特に指定がない時は、２０秒を登録してください。
６	不応答転送時間	なし １５秒 ２１秒 ３０秒 ４５秒 ６０秒 確認	５６０ ５６１ ５６２ ５６３ ５６４ ５６５ ５６９	LINE ２ ３ ４ LINE+２ LINE+３	特に指定がない時は、２１秒を登録してください。
７	着信転送機能 （⇒Ｐ２４）	なし あり 確認	９００ ９０１ ９０９	LINE ２	
８	転送番号 （⇒Ｐ２４）	２#～４# ２＊～４＊ 確認	９５１ ９５２ ９５９	LINE ２	
９	ﾘﾓｰﾄﾓｰﾄﾞ時の「自動からﾘﾓｰﾄﾓｰﾄﾞ」への解除方法	内線発着信 常に解除 確認	５１１ ５１２ ５１９	LINE ２	特殊登録ですので、特に指定がない限りは変更しないでください。 機能の詳細については販売元等にお問い合わせください。
１０	発信転送機能	なし あり 確認	９６０ ９６１ ９６９	LINE ２	
１１	内線指定信号の桁間タイミング	０．３秒 ０．５秒 １秒 ２秒 ３秒 ５秒 確認	９８１ ９８２ ９８３ ９８４ ９８５ ９８６ ９８９	２ LINE ３ ４ LINE＋２ LINE＋３	
１２	信号検出時間中のＲＢＴ送出の有無	なし あり 確認	８１０ ８１１ ８１９	２ LINE	
１３	ファクス内線呼出中のＲＢＴ送出の有無	なし あり 確認	５３０ ５３１ ５３９	LINE ２	
１４	欠番				
１５	外線へのＰＢ信号送出時間	１００ｍｓ ２００ｍｓ ３００ｍｓ １．５秒 ２．１秒 確認	８４１ ８４２ ８４３ ８４４ ８４５ ８４９	LINE ２ ３ ４ LINE＋２	

NO.	機能名	登録内容	登録番号	点灯ﾗﾝﾌﾟ	注意事項
１６	内線端末の切断監視時間	１．５秒 ０．１秒 確認	８０１ ８０２ ８０９	LINE ２	
１７	外線着信検出から自動応答までの時間	０．５秒 ０．８秒 １．０秒 １．２秒 １．５秒 ２．０秒 ３．０秒 確認	８７１ ８７２ ８７３ ８７４ ８７５ ８７６ ８７７ ８７９	２ ３ LINE ４ LINE＋２ LINE＋３ LINE＋４	
１８	内線２の付加番号付発信	なし Aモード Bモード 確認	０２０ ０２１ ０２２ ０２９	ＬINE ２ ３	
１９	内線２の着信時の応答信号の送出	なし あり 確認	３２０ ３２１ ３２９	ＬINE ２	付加番号付発信Ｂの着信側装置に登録します。
２０	内線３の付加番号付発信	なし Aモード Bモード 確認	０３０ ０３１ ０３２ ０３９	LINE ２ ３	
２１	内線３の着信時の応答信号の送出	なし あり 確認	３３０ ３３１ ３３９	ＬINE ２	付加番号付発信Ｂの着信側装置に登録します。
２２	内線４の付加番号付発信	なし Aモード Bモード 確認	０４０ ０４１ ０４２ ０４９	ＬINE ２ ３	
２３	内線４の着信時の応答信号の送出	なし あり 確認	３４０ ３４１ ３４９	ＬINE ２	付加番号付発信Ｂの着信側装置に登録します。
２５	ダイヤル桁間タイミングの変更	３秒 ４．５秒 ６秒 ８秒 １０秒 １２秒 確認	９７１ ９７２ ９７３ ９７４ ９７５ ９７６ ９７９	２ LINE ３ ４ LINE＋２ LINE＋３	付加番号付発信Ｂの時のダイヤル終了からＰＢ送出までのタイミング
２５	全データの初期値化	全データを初期値にする	＊＃ または ９９００	回線ﾗﾝﾌﾟが全て点灯	

１３．システムデータの確認

システムデータの登録内容の確認

システムデータの登録内容を、項目毎に、ランプ表示で確認できます。

準備

内線２に電話機を接続し、設定用スイッチの１０をＯＮにします。（⇒Ｐ２６）

確認方法

①内線２に接続した電話機の受話器を上げます。
（「プップー　プップー　・・・　」という音が聞こえます）

②システムデータの各項目の確認番号をダイヤルします。
（登録内容が、ＬＩＮＥランプおよび内線２～４ランプに表示されます）

③受話器をおろします。

例）１０秒に登録された「自動応答時の信号検出時間」を確認する場合

準備　内線２に電話機を接続し、設定用スイッチの１０をＯＮにします。

①　内線２に接続した電話機の受話器を上げます。

②　「４９」をダイヤルします。（⇒Ｐ２７　ＮＯ．３）

③　内線ランプの「３」が点灯します。
（信号検出時間が「１０秒」に登録されていることを表示します）

ご注意

●確認番号とランプ表示の内容は、システムデーター覧表（⇒Ｐ２７～２９）を参照してください。
●任意登録したＩＤ番号の確認はできません。ただし、変更したかどうかの確認はできます。（⇒Ｐ２７）
●システムデータ登録時にも、登録内容がランプ表示されます。
●システムデータを初期値化したときは、ＬＩＮＥランプおよび内線２～４ランプが全て点灯します。

１４．ランプによる状態表示

ランプ表示により、本装置の動作状態がわかります。
また、外線（ＮＴＴ回線）の極性を、ランプ表示で確認できます。

ＬＩＮＥランプ　（外線ランプ）

外線の状態	ランプ表示（橙色）
待機中、外線未接続	消灯
外線着信中	早い点滅（１秒間に４回の点滅）
自動応答中	遅い点滅（２秒間に１回の点滅）
通話中	点灯
外線の極性逆 （Ｌ１マイナスの場合）	特殊点滅 （ＲＶＳスイッチを切り替えることにより消灯します）

２～４ランプ　（内線ランプ）

内線の状態	ランプ表示（橙色）
待機中	消灯
内線着信中	早い点滅（１秒間に４回の点滅）
ダイヤル中、通話中	点灯
話中音聴取中、受話器外し	遅い点滅（２秒間に１回の点滅）

ＰＯＷランプ　（電源ランプ）

電源コードをＡＣ１００Ｖのコンセントに接続すると点灯します。
通常は、緑色で点灯します。　ダイヤルインモードの時は、橙色で点灯します。

ご注意

●Ｆネットの無鳴動着信中は、LINE ランプと内線２ランプが早い点滅をします。ファクスが応答する（通話状態になる）と、点灯状態になります。
●設定用スイッチの１０をＯＮ（システムデータ登録モード）にしたときは、LINE ランプと内線２～４ランプが遅い点滅をします。

１５．こんなときは

１５．１　停電したとき

・停電したときは、内線２が直通になりますので内線２の電話機から電話を受けたりかけたり出来ます。他の内線は使えません。
・ダイヤルインサービスをご利用の場合は、外へかけることは出来ますが電話を受けることはできません。
・外と内線３か４が通話中、停電が発生した場合は、通話は切れます。
・停電が発生しても登録したシステムデータは消えません。

１５．２　停電が復旧したとき

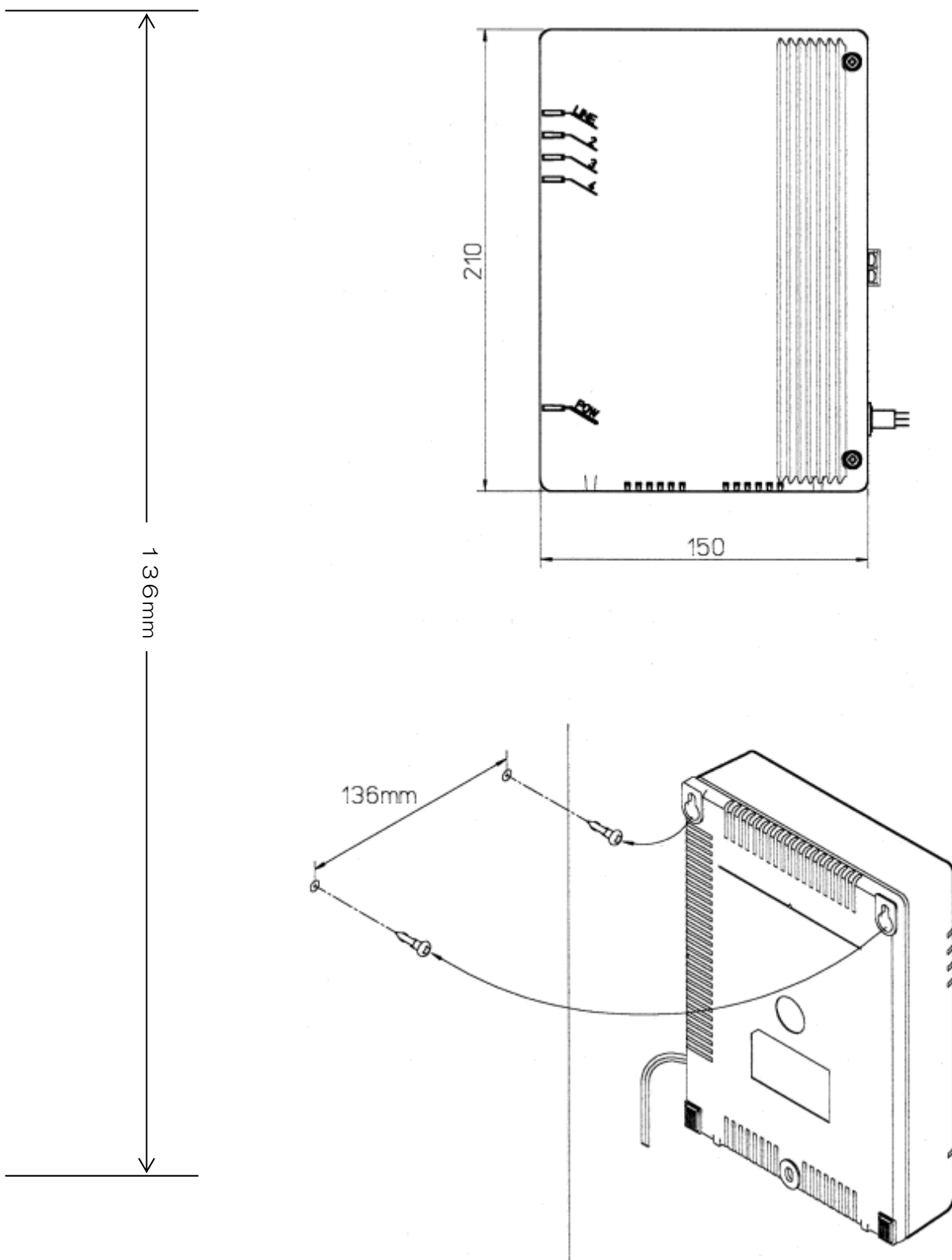
・停電が復旧すると本装置は自動的に使えるようになります。

１５．３　困ったときのチェックポイント

症　　状	確認項目
電源を入れると、LINE ランプが点滅する。	外線の極性が逆です。極性を入れ替えるか、「ＲＶＳ」スイッチを切り替えてください。（⇒Ｐ１５）
ピンク電話に硬貨を入れても、何も聞こえず発信できない。	外線の極性を入れ替えるか、「ＲＶＳ」スイッチを切り替えてみてください。（⇒Ｐ１５） ネジ止め端子の接続が正しいか確認してください。ピンク電話機の白色のコードは白(+)側、赤色のコードは赤(-)側に接続してください。（⇒Ｐ１４）
ｺｰﾄﾞﾚｽﾋﾟﾝｸ電話機の LCD 表示に「ｼﾊﾞﾗｸｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ」と表示されて、発信ができない。	外線の極性が逆か、またはピンク電話機の配線（赤と白）が逆です。配線を入れ替えてみてください。 （⇒Ｐ１４、１５、３５）
ファクスの着信はできるが、発信ができない。	外線の極性は正しい（L1ﾌﾟﾗｽ、L2ﾏｲﾅｽ）ですか？ 極性を入れ替えるか、「ＲＶＳ」スイッチを切り替えてみてください。（⇒Ｐ１５）
ファクスの発信はできるが、着信ができない。	ファクスを内線何番に接続していますか？ 「ファクス自動切り替え」機能を使用しないときは、ファクスを、内線２に接続してください。 「ファクス自動切り替え」機能を使用するときは、ファクスを、内線３に接続してください。（⇒Ｐ２０）
電話機、ファクス等の発信ができない。	他の内線のモデム等が通信中ではありませんか？ （その場合は、話中音が聞こえます）
発信・着信ができない。	設定用スイッチの１０がＯＮになっていませんか？ （LINE ﾗﾝﾌﾟ、２～４ﾗﾝﾌﾟが点滅していませんか？） システムデータ登録中は、発着信できません。 システムデータ登録後は、設定用スイッチの１０を、必ずＯＦＦに戻してください。
内線２しか使えない。	電源コードが抜けていませんか？ （ＰＯＷランプが消えていませんか）

症　　状	確認項目
停電時に使用できない。	内線何番を使っていますか？ 停電時は、内線２番しか使えません。
増設ベルが１～２回で止まってしまう	増設ベルを、どこに接続していますか？ 増設ベルは、内線２の電話機と並列に接続してください。（⇒Ｐ１６）
モデム通信がときどきエラーになる	キャッチホンサービスをご利用になっていますか？ キャッチホンサービスをご利用になりますと、モデム通信中に他からの着信でキャッチホン信号が入り、モデム通信エラーになります。 キャッチホン信号が消せる「キャッチホンⅡ」をご利用ください。詳しくはお近くのＮＴＴ窓口にお問い合わせください。
着信テストのとき、指定の内線に着信しない。 （外から電話して、内線のＩＤ番号を手動で送っても、指定の内線に着信しない）	内線のＩＤ番号（４＃、０４＃等）の送出はすばやくおこなってください。 （例）４＃を送出する場合 　４と＃の送出間隔は、０．５秒以内にしてください。 　０．５秒以上になると正しく切り替わりません。 　０．５秒の時間を長くしたい時は、システムデータ「内線指定信号の桁間タイミング」を変更してください。 （⇒Ｐ２８　NO１１）

１６．取付方法

卓上設置と壁掛け設置の２通りの方法があります。
壁掛け設置の場合には、添付の木ネジを壁に取り付け、本装置を木ネジに引っ掛けてください。
（下図参照）

１７．ピンク電話機の異常動作

主なピンク電話機の誤配線と異常動作の関係

配線状態 ピンク電話機	ピンク電話機側逆	外線側逆	外線、ﾋﾟﾝｸ電話両方逆
	外線 L1+ L2- ／ 内線２ 赤(-)に白ｺｰﾄﾞ 白(+)に赤ｺｰﾄﾞ	外線 L1- L2+ ／ 内線２ 赤(-)に赤ｺｰﾄﾞ 白(+)に白ｺｰﾄﾞ	外線 L1- L2+ ／ 内線２ 赤(-)に白ｺｰﾄﾞ 白(+)に赤ｺｰﾄﾞ
ﾌﾟｯｼｭ式 ﾋﾟﾝｸ電話機 (675P-VB)	着信：無音で通話不可 発信：硬貨投入しても無音で不可。	着信：無音で通話不可 発信：硬貨投入しても無音で不可。	着信：通話不可 発信：硬貨投入しても無音で不可。
Ｐてれほん (PT-1P)	着信：無音で通話不可 発信：硬貨投入しても無音で不可	着信：無音で通話不可 発信：硬貨投入しても無音で不可	着信：通話可能 発信：通話可能
ｺｰﾄﾞﾚｽ Ｐてれほん (PT-3CLN)	着信：無音で通話不可 相手は、電話が切れる。 LCD 表示 「ｵﾊﾅｼﾃﾞｷﾏｾﾝ」 発信：受話器を上げても硬貨投入口は塞がったままで発信不可 LCD 表示 「ｼﾊﾞﾗｸｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ」	着信：話中音で通話不可 相手は、電話が切れる。 発信：硬貨投入しても話中音で不可。 LCD 表示 「ｼﾊﾞﾗｸｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ」 その後 「ｺｳｶｦｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ」 と表示されるが、話中音が聞こえ発信不可。	着信：通話可能 発信：通常と異なるが発信可能。 LCD 表示 「ｼﾊﾞﾗｸｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ」 で、発信音が聞こえ、 「ｺｳｶｦｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ」 硬貨投入で通話可能。
子機	着信：無音で通話不可 発信：無音で警告音が鳴る。	着信：無音で通話不可 発信：無音で警告音が鳴る。	着信：通話可能 発信：通話可能
ＰてれほんＥ (PT-4)	着信：無音で通話不可 相手は、電話が切れる。 発信：硬貨投入しても無音で不可。	着信：無音で通話不可 相手は、電話が切れる。 発信：硬貨投入しても無音で不可。	着信：通話可能 発信：何回かは可能。そのうち無音で不可。 但し、着信があるとまた発信可能。
ＰてれほんＦ (PT-51)	着信：無音で通話不可 相手は、電話が切れる。 発信：硬貨投入しても無音で不可。	着信：無音で通話不可 相手は、電話が切れる。 発信：硬貨投入しても無音で不可。	着信：通話可能 発信：通話可能。 但し、発信音が聞こえるまでに、数秒かかる。
ＰてれほんＳ	着信：無音で通話不可 相手は、電話が切れる。 発信：無音で不可。 LCD 表示 「ｶﾞｲｾﾝｾｯﾃｲﾍﾝｺｳ」	着信：無音で通話不可 相手は、電話が切れる。 発信：無音で不可。 LCD 表示 「ｶﾞｲｾﾝｾｯﾃｲﾍﾝｺｳ」	着信：通話可能 発信：通話可能。 但し、発信音が聞こえるまでに、数秒かかる。

ピンク電話機を接続する場合は、外線の極性（L1ﾌﾟﾗｽ、L2ﾏｲﾅｽ）と、ピンク電話機の赤、白コードを正しく接続してください。（⇒Ｐ９、１０）

■仕　様

使用電圧	ＡＣ１００Ｖ±１０Ｖ（５０／６０Ｈｚ）
消費電力	待機時：約４．５Ｗ、　最大時：約１２．５Ｗ
回線数	外線１回線、　内線３回線
接続方法	モジュラジャック、　ネジ止め端子（内線２のみ）
外形寸法	２１０（Ｗ）×１５０（Ｄ）×４８（Ｈ）　mm
質量	約０．９ｋｇ
使用環境	温度：０～４０℃、　湿度：３５～８０％

保 証 規 定

1.保証期間内に商品が故障した場合は、本規定に従い無償修理致します。
製品に本書を添えてお買い上げ販売店等にご依頼ください。

2.保証期間内でも次の場合は有償となります。
(1)修理依頼時に保証書またはお買い上げ伝票の提示がない。
(2)お買い上げ日、お客様名、販売店印の記入がない、及び保証書またはお買い上げ伝票を改変した場合。
(3)商品に添付のユーザーズ･マニュアルの注意事項やご使用上の注意を満足していない場合。
(4)出張修理を要する場合。
(5)本書に故障内容を明記されていない場合。
(6)書面が添付されていても、内容が不明で再現のために調査費用が発生した場合。
(7)火災、地震や台風などの天災、騒乱などの人災、公害や異常電圧などの使用環境による故障および損傷。
(8)保管・運搬による故障および損傷。
(9)接続された他の機器に起因して故障した場合。
(10)弊社保守部門以外で修理、調整、改造をした場合。
(11)取扱い上での不注意、ご使用による故障および損傷。
(12)弊社が認めた以外で使用した場合のトラブル。

3.将来販売されるソフト、ハードとの互換性は保証されませんのでご了承ください。
･ソフトやハードの組み合わせ等の相性で発生するトラブルは故障としませんのでご了承ください。
･修理･交換部品が製造中止や入手困難な場合は､相当品または上位互換品と交換する場合があります。
･本商品を第3者に転売した場合は保証対象外となります。

4.本商品の故障またはその使用で生じた直接的､間接的損害は､弊社は一切の責任を負わないものとします。

5.本保証規定は日本国内で有効です。　This warranty is valid in Japan.
また本商品は、極めて高い信頼性が要求される下記のような用途での使用はできません。
これらの使用は保証対象外となりますので、あらかじめご了承ください。
・軍事目的・原子力設備・交通制御設備・防火、防災設備・燃焼制御設備・航空宇宙機器
・生命維持のための医療機器・その他人命や財産に影響をおよぼす設備。

＊保証期間終了後の有償修理は別途見積となります。

本規定は、以上の保証規定により弊社が無償保証を行うためのもので、これによりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

＜　故障内容　＞

故障内容を具体的に記載ください。

記載ない場合は返却させていただく場合があります。

★1.　電話機・ファクス・モデム等の型式を記載ください。

★2.　初期不良でしたか？　使用中の故障でしたか？　:(初期／使用中)

★3.　故障内容を具体的に記載ください。

保　　証　　書

品　　名　：　回線自動切替装置

型　　名　：　ＦＴ－１０３－ＮＸ

製造番号　：

この度は、弊社商品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
本保証書は、保証規定により商品の無料修理を行うことをお約束するものです。
お手数ですが所定項目へご記入ください。
★印欄（裏面「保証規定」の故障内容欄にも有り）の記入のない保証書は無効となり、無料修理はできなくなりますので、かならず記入の有無をご確認ください。
商品の故障など修理発生時に無償・有償修理の区別なく本保証書の提示が必要になります。
本保証書は再発行しませんので、紛失しないよう大切に保管ください。

★お客様	ご住所	〒　　　電話　　　（　　　） e-mail
	お名前	フリガナ
★お買い上げ日		年　　月　　日
保　証　期　間		お買い上げから **１　年間**

販売会社または販売店
住所・会社名（または店名） 電話　　　（　　　）

<製品に関するお問い合わせ>

富士通コンポーネント株式会社
第二マーケティング部
TEL：03-5449-7014, FAX：03-5449-2628
e-mail：promothq@fcl.fujitsu.com
ホームページ：http://www.fcl.fujitsu.com/

回線自動切替装置　FT-103-NX

取扱説明書

発行日　　　2013年 3月
発行責任者　富士通コンポーネント株式会社

Printed in Japan